

平成 28 年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	キャリア教育の推進を通して各学部の教育内容 ・方法を見直し、系統性 ・一貫性のある教育課程を編成し、授業改善に取り組む。	・キャリア教育についての考え方を共有する。 ・各学部での実践事例を収集する ・研究と連動させながらキャリア教育の視点での授業実践と検証に取り組む。	・3(4)年間の研究テーマとしてキャリア教育を掲げ、漸進的な取組として各学部で計画、実行してみる。 ・ねらいの明確な授業実践のための研究授業の実施	・当面の研究テーマが実践へ生かす方法と3(4)年間の見通しがついたか。 ・研究の成果を生かした授業研究を実施し、次年度への課題が明確になったか。					
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	児童・生徒一人ひとりが健康で安全に、かつ、安心して教育活動に取り組めるよう専門性の高い指導を行うとともに校内指導体制を整備する。	・個別教育計画の改善として、有効なアセスメントツールの選択や実施方法等について精査、相談担当、PT,OT等とのチームによる見直し等に取り組む。 ・緊急時シミュレーションの実施、ヒヤリハットの集約と共有・関係機関との連携によるケース会の実施。	・学部ごとの児童生徒の実態に応じたアセスメントツールに応じた、専門職等の意見の意見を反映した個別教育計画を作成する。 ・各学部・学級で緊急時シミュレーションを実施する。 ・ヒヤリハットは大きな事故の防止として有用であることを周知する。	・適当なアセスメントルーツ開発できたか。 ・専門職等の見立てや意見が反映されているか。 ・学級ごとに緊急時シミュレーションを実施したか。 ・ヒヤリハットの報告書が昨年度90を上回ったか。					
3	進路指導・支援	児童・生徒一人ひとりが卒業後に地域社会で自分らしく暮らせるよう、個々のライフキャリア・ワークキャリアを見据えた進路指導・支援を行う。	・小学部段階からの進路指導・支援に関する研修会等の計画・実施。 ・アフターフォローの体制整備・検証。 ・進路学習、作業学習の現状の課題の整理・改善。	・小学部、中学部、高等部でそれぞれの段階での進路・支援の研修会を実施する。 ・卒業生の動向を把握し適切なアフターフォローを行う。 ・教育課程の中に進路学習、作業学習を位置づける。	・進路・支援研修を実施できたか。 ・アフターフォローの対応への人的対応が難しいことを意識して対応策を練られたか。 ・学部会で教育課程の意図を確認した授業づくりが出来たか。					
4	地域等との協働	地域のセンター的機能の充実を図るとともに、地域との交流の機会を積極的に設定し、交流を深めることを通して共生社会の具現化に貢献する。	・保護者や地域のニーズを踏まえた研修会等の実施。 ・井田小学校との交流の継続。 ・分教室と住高との交流の可能性の模索。 ・教室表示・案内図の見直し。 ・地域の人と一緒にポッチャの体験講習会・交流及び共同学習推進プロジェクトと連動しながらPR、収集。	・保護者や地域の方にオープンな研修会の実施。 ・担任間でねらいを確認し井田小学校との交流を実施する。 ・分教室と住吉高校との新たな交流のあり方を検討する。 ・教室表示、案内図を考案する。 ・ポッチャを校内で普及させ、地域にも紹介できるようにする。	・参加者の目標人数を意識して研修会を実施できたか。 ・ねらいの明確な学校間交流ができたか。 ・交流の新しいアイデアを発想する機会をもったか。 ・場当たりのでない計画を作成した上で教室表示、案内図を作成する。 ・地域の方に紹介できる域まで、職員・児童生徒間で普及できたか。					
5	学校管理 学校運営	専門性の高い人材の育成と保護者や地域から信頼・信用されるよう開かれた風通しの良い学校づくりを行う。	・防災教育の実施。近隣関係機関との合同訓練についての検討。 ・ICT機器の活用に向けたマニュアル作り、研修会の実施 ・人権研修の実施・年次研修のシステム化の検討・実施・検証。	・避難訓練等に合わせて防災教育を実施する。 ・ICTの活用のプロジェクトを立ち上げ、活用方法の開発と職員への周知を始める。 ・人権研修や年次研修を通して人材育成を図る、	・それぞれの状況に応じた防災教育ができたか。 ・開発と普及が進んだか。 ・それぞれの研修が十分な準備と評価がなされ、人材育成の効果があったか。					